

## 令和元年度 特別の教育課程編成の実施状況について

### 1. 特別の教育課程の内容

#### (1) 特別の教育課程の概要

英語力を重点的に強化するコース「Assumption English Course」を設置する。英語イマージョン教育によりネイティブと語り合える英語力を養成し、アクティブラーニングにも取り組む。

#### (2) 必要となる教育課程の基準の特例

平成29年4月に英語イマージョン教育を標榜したアサンプションイングリッシュコースを設置するにあたり、教育課程の基準の特例を次のとおりとする。

算数、理科、生活、音楽、図工、英語、総合的な学習の時間について、英語を含む指導により授業を行う。具体的には現行の学習指導要領に定める各学年・教科等の標準時間数を堅持しつつ、6年間における総授業時間数の約50%について、英語を含む指導とする（教育課程全体は添付の教育課程表参照）。

#### (3) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

学校設置地域である大阪府箕面市は多文化交流を重んじ、近隣の大阪大学外国語学部をはじめとする多くの研究機関が設置され、児童に対する英語初等教育の実現が求められている。さらに市内を中心とする在住児童に対しても幼少期から外国語を自由に駆使し、グローバルな視野をもつ国際人として養成することが求められている。それらの要請に応えるため、英語に重点を置いた教育を行い、地域に根付いている国際交流環境の中で、さまざまな背景を持った児童が啓発し理解し合う、さらなる異文化教育の拠点となる環境を構築すべく特別の教育課程を編成する。

#### (4) 法令上の教育の目標等との関係

##### ア 教育基本法及び学校教育法における教育の目標に関する規定との関係

英語教育に重点を置く一方で、懸念される日本語力の習得および日本人としての意識涵養には十分な対策を講じる。具体的には国語科の強化と国語能力養成の重要性を認識し、十分な指導を行っていく。

##### イ 学習指導要領に定める内容事項が特別の教育課程において適切に取り扱われていること

日本語による指導および英語を含む指導の双方について、教員免許を有する教員が検定教科書に準拠した教育を行う。

また児童に対しては、学習指導要領に定める内容事項の到達度について検証するために、適宜、学習到達度のチェックを行う。懸念が生じた場合は、速やかに学習内容の点検、改善を行う。

ウ 学習指導要領に定める内容事項を指導するための総授業時数が特別の教育課程において確保されていること

現行学習指導要領に定める各学年・教科の授業時間数の標準を確保することを前提に教育課程を編成しており、総授業時間数についても標準時間数を上回る、6830時間を確保する。

(5) 児童又は生徒の教育上適切な配慮及び保護者への配慮

ア 児童又は生徒の発達の段階並びに各教科等の内容の系統性及び体系性への配慮

アサンプション国際小学校の卒業生の約半数が同一法人であるアサンプション国際中学校へ進学することを想定している。アサンプション国際中学校高等学校は英語教育・国際理解教育・異文化教育等には創立以来の実績を持ち、小学校段階で涵養した英語力を持続発展させる土壌を持ちあわせている。小中が連携して、併設校の強みを生かした、系統的、体系的な学習が可能とする十分な配慮を行う。

イ 保護者の経済的負担への配慮その他の義務教育における機会均等の観点からの適切な配慮（小学校、中学校、中等教育学校の前期課程又は特別支援学校の小学部若しくは中学部において特別の教育課程を編成・実施する場合のみ記載）

義務教育における機会均等という観点から、保護者の経済的負担にならないような学費設定を検討する。

ウ 児童又は生徒の教育課程特例校への転出入に対する配慮

転入に関しては基本的には帰国生やインターナショナル幼稚園出身という英語学習環境が充実している中で教育された児童を対象とし、英語教育に特化した教育課程は日本語が堪能でない児童に対して、順応しやすい配慮がされていると考える。日本語と英語を自由に駆使する児童の養成を目指すため、日本語教育にも注力し、児童が転出する際にも、支障がないよう十分に配慮する。

エ その他特例の実施に当たって必要と考えられる配慮等

今後の運用において、必要に応じた配慮を柔軟に行う。

(6) 特例の適用開始日

平成 29 年 4 月 1 日

(7) 取組の期間

学習指導要領は原則 10 年毎に改訂されることになっているが、平成 29 年 4 月から本学の行う教育課程の趣旨が、学習指導要領改訂時に盛り込まれるまで。

(8) 計画の実施状況の把握・検証及び文部科学省への報告

取組開始後 3 年の期間を経た平成 32 年度に計画の実施状況、実施の効果、課題と今後の取り組み等について、文部科学省に報告し、以後も 3 年に 1 度報告を継続する。

アサンプション国際小学校 教育課程表  
(アサンプション・イングリッシュ コース)

区分	各教科の授業時数										特別の 宗教の 授業時数	特別の 特別活動 の授業時数	総合的な 学習の時間 の授業	外国語 活動の 授業時数	総 授業 時数
	国 語	社 会	算 数	理 科	生 活	音 楽	図 画 工 作	家 庭	体 育	外 国 語					
第1学年	306		136		102	68	68		102		34	34		170 (+170)	1020 (+170)
第2学年	315		175		105	70	70		105		35	35		175 (+175)	1085 (+175)
第3学年	245	70	210 (+35)	90		60	60		105		35	35	70	175 (+140)	1155 (+175)
第4学年	245	105 (+15)	210 (+35)	105		70 (+10)	70 (+10)		105		35	35	70	140 (+105)	1190 (+175)
第5学年	210 (+35)	100	210 (+35)	105		50	70 (+20)	60	105 (+15)	140 (+70)	35	35	70		1190 (+175)
第6学年	210 (+35)	105	210 (+35)	105		50	70 (+20)	55	105 (+15)	140 (+70)	35	35	70		1190 (+175)
合計	1531 (+70)	380 (+15)	1151 (+140)	405	207	368 (+10)	408 (+50)	115	627 (+30)	280 (+140)	209	209	280	660 (+590)	6830 (+1045)

\* 1 標準授業時数と異なる授業時数を設定する教科等については、標準授業時数からの増減を( )で記入し、網掛けにすること。

\* 2 英語による教育(いわゆるイマージョン教育)を行う場合には、標準授業時数や増減時数の下にアンダーラインを引くこと。

2. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

[ ・計画通り実施できている ]

(2) 保護者及び地域住民その他関係に対する情報提供の状況

[ ・計画通り実施できている ]

(3) 教職員による評価

①英語教育を中心とした国際教育がすすめられていますか。

よくできている	できている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
6%	72%	22%	0%	0%

②イマージョン教育により、各教科の学力は充分につけられていますか。

よくできている	できている	どちらともいえない	あまりできていない	できていない
0%	20%	73%	7%	0%

(4) 保護者による評価

年間3回の授業参観やブログでの発信などを通じて、積極的に授業公開を行い、学校評価アンケートでもフィードバックをいただいている。

①イマージョン教育により、算数の力がついてきていると思われませんか。

強く思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
22%	51%	18%	9%

②イマージョン教育により、理科の力がついてきていると思われませんか。

強く思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
20%	31%	40%	9%

③イマージョン授業の中でも、日本語での理解を深めるために、日本人教員による指導の時間を積極的に確保する必要があると思われませんか。

強く思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
26%	19%	30%	25%

④英語教育を中心とした国際教育がすすめられていると思われませんか。

強く思う	少し思う	あまり思わない	全く思わない
22%	51%	18%	9%

※保護者による学校評価アンケートより（2019年度1～3年イングリッシュコース91名）

3. 実施の効果および課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校においては、「世界の平和に貢献する人の育成」を目指し、英語力を重点的に強化する「イングリッシュコース」を設置している。このコースにおいては、英語イマージョン教育により英語運用能力の飛躍的な向上を目指し、国際人としての自覚を育成している。今年度は、1期生が4年生へと進級し、より実用的な英語の運用がされるようになってきている。英語検定、レシテーションコンテスト、そして来年度末には海外研修の実施も予定されており、今までの成果を測る貴重な機会だと考えている。

学年が進んでいくにつれ、教科教育の中で、英語の運用能力だけではなく、日本語としての理解も求められるようになってきている。その配分の調整をどのようにしていくのかが、今後の課題として感じている。

(2) 法令上の教育の目標等との関係

学習内容については日本の学習指導要領に沿った内容を英語で行うこととしており、評価においても学習指導要領の到達目標を意識しながら確認をしている。授業は教科書の内容に精通した日本語を母語とする教員と英語の能力に長けた外国語を母語とする教員のTTで授業を行っており、両者が事前・事後に相談することで内容を確認している。

課題としては上記趣旨に沿ったテキストやテストがほとんど市販されていないため、教

科担当者が独自に教材等を制作する必要があるため負担が大きくなっている。

#### 4. 課題改善のための取り組みの方向性

保護者アンケートの結果より、算数においてはイマージョン教育の効果に7割以上の方が満足していることが分かる。一方で、理科においては実施初年度ということで、満足度はおよそ半分程度にとどまった。今後3年間の実践の中で、内容を精査していき、より効果的な指導ができるように検討していく必要がある。

また、イマージョン教育を実施している教科においても、日本語での理解を希望する保護者が半数近くいるという結果が出た。この結果からも、英語・日本語どちらものアプローチが授業において重要となっていることが分かる。

本校はインターナショナルスクールではないという立場から、日本語と英語の指導領域をより明確にすみわけの必要がある。毎年実施と振り返りを繰り返していきながら、6年間のカリキュラムを作成していかなければいけない。現在も「イマージョン会議」を定期的に関き、授業の取り組みや学級の様子を共有しているが、今後その役割がより重要となってくる。

また、英語によるテキストの制作負担等課題も出ている。日本語・外国語教員の両者の協力による本校独自の教材の制作を継続し毎年更新を行うことで、教材をレベルアップさせていきたい。また授業方法の交流など、教員間で実践を共有していく仕組みを構築したい。

継続してこれら教育目標達成のための取り組みを向上できるよう、今後も実行・評価・改善を行いながら学校全体で取り組んでいきたい。